

当院で妊娠・分娩管理を行う妊婦さんへお願い

2019年12月、中華人民共和国の湖北省武漢市で肺炎患者の集団発生が報告され、原因がSARS-CoV-2による感染症であることが判明して、感染症法の名称として新型コロナウイルス感染症（COVID-19と呼び、以下本文ではCOVID-19と記す）と命名されました。本邦では2020年1月16日に初めてCOVID-19患者が報告され、2021年10月28日現在で日本国内では172万人（死亡者18236人）、岡山県で15270人（死亡者136人）の報告があり、ワクチンの普及と感染予防策が定着したことでCOVID-19の感染状況は落ち着いてきましたが、第6波が来る可能性は否定できません。

岡山県では2つの総合周産期母子医療センター、当院を含む4つの地域周産期母子医療センターが設置されていて、岡山県や感染症指定医療機関と協議の上、岡山県の感染状況を加味してCOVID-19妊産婦への対応と予防対策について適宜更新しています。現在は「第5波」が終息している状況のため、再度、当院の妊娠・分娩管理を見直すとともに2021年11月1日以降の当院の方針を示させていただきます。当院にかかりつけの妊産婦の皆様だけでなく、ご家族の皆様におきましてもご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

① 立会い分娩の家族の分娩付き添いは一定の基準を満たした場合に許可します。

ご家族の分娩付き添いは原則禁止でしたが、(I) 18歳以上の方、(II) ご家族の代表者1名のみ、(III) 不織布マスクの着用と手指消毒の徹底、(IV) 分娩入院時に鼻咽頭から新型コロナウイルスPCR検査を行い陰性の確認、(V) 2週間以内にCOVID-19を疑う症状がなく、国内流行地（緊急事態宣言あるいは蔓延防止等重点措置発令地）および海外に行っていないこと を満たした場合には許可します。また、精神的・身体的介助が必要な場合や通訳が必要な海外出身の方に関しては、ご家族以外の方も産婦人科主治医の判断で許可することがあります。

② 病棟面会制限を緩和します。

2021年11月7日（日）より当院の基準に沿って面会制限を緩和します。現在のところ日曜日のみですが、最新の情報は当院のホームページをご参照ください。(I) 原則としてワクチンを2回接種し2週間が経過した12歳以上の2名以内のご家族（入館時に面会時確認表の確認とワクチン接種済み証明書あるいは接種時に渡された接種記録を提示して頂きます）、(II) ワクチン接種を受けていない場合や最終接種から2週間が経過していない方に関しては、面会日から1週間以内に新型コロナウイルスPCR検査で陰性を確認して証明書を持参・提示ください、(III) ご家族以外の友人や職場関係者は面会できません、(V) 面会日に岡山県に緊急事態宣言あるいは蔓延防止等重点措置が発令されている場合、面会できません。

③ 帰省分娩（里帰り分娩）は一定の受け入れ基準を満たした場合に受け入れます。

一定の受け入れ基準を満たした場合のみ地域周産期母子医療センターの役割のもと受け入れます。 かかりつけの主治医へ相談して初診外来の予約をお取りください。

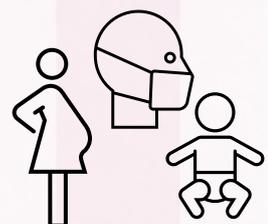
④ 手術、処置、病状や方針の説明や同意は、本人のみで許容します。

可能な限り電話や文書を用いて配偶者もしくはその他のご家族へ説明して同意をいただきますが、母児の救命など緊急的な状況では事後報告になることがあります。

⑤ 入院中の患者様や分娩付き添い者は原則として外出・外泊はできません。

⑥ 飛沫感染予防のために、不織布マスクを着用してください。

「第1波」では、不織布マスクの購入が困難な状況が続いていましたが、現在は購入しやすくなっています。不織布マスクは布マスクよりもフィルターの目が細かく、感染のリスクを軽減することが可能であることが証明されています。妊産婦の皆様やご家族の皆様は事前に準備しておいてください。経膈分娩や帝王切開の際にも不織布マスクの着用をお願いしています。



令和3年10月25日

妊産婦のみなさまへ

日本産科婦人科学会 理事長 木村 正
SARS-CoV2（新型コロナウイルス）感染対策委員会委員長 川名 敬

—新型コロナウイルスワクチンの安全性に関する最新情報—

新型コロナウイルスワクチンの普及とともに、新型コロナウイルスの感染状況は落ち着いてきましたが、また第6波が来る可能性も否定できません。わが国において、妊婦さんは時期を問わずワクチンを接種することをお勧めします。また、授乳期や妊娠を計画されている方も同様にワクチンを接種することをお勧めします。本年10月に新型コロナウイルスワクチンの妊婦さんへの接種の安全性に関するデータが発表されましたので、お知らせいたします。

【報告の内容】

- ・2020年に妊娠14週未満の流産となった妊婦さんを調べたところ、新型コロナウイルスワクチンを5週間以内に接種していた約1000人の妊婦さん、もしくは3週間以内に接種していた約600人の妊婦さんでは、接種していない妊婦さんと比べて、流産となった率に差がありませんでした（ノルウェーのデータ）。
- ・妊娠初期に新型コロナウイルスワクチンを接種しても、それによって流産を引き起こすことはないと考えられ、妊婦さんへの接種の安全性が確認されました。

このように妊娠初期であっても、新型コロナウイルスワクチンを接種することで流産しやすくなることはないと考え、安心して接種を受けてください。

【参考資料】

1) Covid-19 Vaccination during Pregnancy and First-Trimester Miscarriage, New England Journal of Medicine, 2021
<https://www.nejm.org/doi/full/10.1056/NEJMc2114466?query%3D%26cid%3DNEJM%2520eToc,%2520October%252021,%25202021%2520DM395995%26bid%3D678596235&source=gmail-imap&ust=1635382401000000&usg=AOvVaw0CBcB_DtoYnUbn6jY17D9>

令和3年8月14日

妊産婦のみなさまへ

日本産科婦人科学会 木村正

日本産婦人科医会 木下勝之

日本産婦人科感染症学会 山田秀人

—新型コロナウイルス（メッセンジャーRNA）ワクチンについて（第2報）—

昨今、新型コロナウイルスが若年者を中心に急速に感染拡大し、多くの妊婦さんの感染も確認されています。一方で、新型コロナウイルス（メッセンジャーRNA）ワクチンは、高齢者に限らず基礎疾患を持つ者、それ以外の者へと順次拡大されております。

① アメリカ疾病対策センター（CDC）は妊婦さんへのワクチン接種を強く推奨する声明を出しています。

わが国においても、妊婦さんは時期を問わずワクチンを接種することをお勧めします。

② 妊婦が感染する場合の約8割は、夫やパートナーからの感染です。

そこで、妊婦の夫またはパートナーの方は、ワクチンを接種することをお願いします。

なお、このお知らせは、最新の知見に基づいて6月17日のお知らせを更新するものです。

1. 妊娠中、特に妊娠後期に新型コロナウイルスに感染すると、重症化しやすいとされています。
2. 全国的に感染地域が拡大し、感染の多い地域では感染拡大が過去にない拡大となっています。そのような地域にお住まいの方や、糖尿病、高血圧、気管支喘息などの基礎疾患を合併している方は、ぜひ接種をご検討ください。
3. 副反応に関し、妊婦さんと一般の人に差はありませんが、発熱した場合には早めに解熱剤を服用するようにしてください。アセトアミノフェンは内服していただいて問題ありませんので頭痛がある場合も内服してください。
4. 副反応の有無にかかわらず、妊娠の異常（流産、早産、その他）の頻度はワクチンを打たなかった妊婦と同じであると報告されています。

なお、接種を希望される場合は、以下の点にご留意ください。

- 新型コロナワクチン接種の予診票には、「現在妊娠している可能性はありますか。または授乳中ですか。」という質問がありますので、「はい」にチェックし、あらかじめ健診先の医師に接種の相談をしておきましょう。接種してよいと言われていれば、その旨を接種会場の問診医に伝えて、接種を受けてください。
- 妊娠中の方は、里帰り先の住民票と異なる居住地の産科医療施設で接種を受ける場合「住所地外接種届」の提出は不要です（接種場所により届け出が必要になることもあるので、里帰り先の行政機関にお問い合わせください）。
- 予定された2回のワクチンを接種しても、これまでと同様に感染予防策（適切なマスク使用、手洗い、人込みを避けるなど）は続けてください。

【参考資料】

- 1) Evaluation of mRNA-1273 SARS-CoV-2 Vaccine in Adolescents; N Engl J Med. 2021 Aug 11
- 2) Preliminary Findings of mRNA Covid-19 Vaccine Safety in Pregnant Persons; N Engl J Med. 2021 Jun 17;384(24):2273-2282.
- 3) The American College of Obstetricians and Gynecologists; <https://www.acog.org/covid-19>, <https://www.acog.org/news/news-releases/2021/08/statement-of-strong-medical-consensus-for-vaccination-of-pregnant-individuals-against-covid-19?fbclid=IwAR00YKT64YvN5yq4NwuB-oiLuGs1H2vgPhqsydYsR9ZDAPyXYQpbKk090F4>
- 4) COVID-19 Vaccination During Pregnancy: Coverage and Safety; Am J Obstet Gynecol. 2021 Aug 9 article in press
- 5) COVID-19 Vaccines While Pregnant or Breastfeeding; https://s3.amazonaws.com/cdn.smfm.org/media/3040/COVID_vaccine_Patients_JULY_29_2021_final.pdf
- 6) Interim Clinical Considerations for Use of COVID-19 Vaccines; https://www.cdc.gov/vaccines/covid-19/clinical-considerations/covid-19-vaccines-us.html?fbclid=IwAR36fcs5T22YgK9okNdwD6bfFHdzt_XDjV8Xx11WZeo2cfqMCTfVWfHqkE

2021年8月23日

新型コロナウイルス感染で妊娠中に自宅や宿泊療養（ホテルなど）となられた方へ

妊娠中に新型コロナウイルスに感染された妊婦さんには、日々不安を抱えていらっしゃると思います。妊婦さんに限らず、現在、全国的に新型コロナウイルス感染用の医療体制が逼迫し、限られたベッド数の中で、感染症の症状に応じて自宅療養や宿泊療養（ホテルなど）となっています。妊娠中に新型コロナウイルスに感染されても、8割以上の方は無症状、またはかぜ程度の軽い咳や発熱の症状で収まり、酸素投与以上の治療が必要な方は全体の2割以下ですので、現在無症状の方はご安心していただきたいと思います。

ただし、妊娠中は様々な妊娠に関連した異常は起こりえますし、症状が強くなる方もおられます。そのため、新型コロナウイルスに伴う症状に加えて、妊娠に関連した異常な症状がないかについて十分ご注意くださいことが大切です。私たち産婦人科医は、自宅やホテルでの療養となられた妊婦さんと密に連絡を取り合い、健康チェックを行うように心がけています。

もし妊娠に関連した異常や体調の変化が発生し、入院療養が必要と判断された場合でも、産科医療機関の連携の中で、かかりつけの産婦人科の先生を通して、産科的な対応が可能な入院施設を探すことができます。

迅速に対応することを努めていますが、状況によっては時間を要することもありますので、以下のような変化が起こった場合には、妊婦さんご自身からかかりつけの産婦人科の先生に電話等で連絡いただくようお願いいたします。

なお、地域によって周産期の医療体制が異なりますので、新型コロナウイルス感染による療養状態となった場合には、かかりつけの産婦人科の先生にその旨を速やかにお伝えいただき、変化が起こった場合の対応をお聞きしてください。

(1) 以下のような妊娠に関連した異常については、かかりつけの産婦人科の先生に連絡してください。

- ・ 性器出血、破水感、頻回の子宮収縮、胎動減少、強い腹痛など
- ・ その他、助産師さん等からの妊婦健診時に言われた症状

(2) 新型コロナウイルス感染症の症状について

まず、以下の健康観察を行ってください。

①呼吸状態、心拍数や呼吸数の計測

②体温

③パルスオキシメーター（サチュレーションモニター）をお持ちの場合は、酸素飽和度（血液内の酸素の量：SpO₂）の計測

(A) 以下の場合には、かかりつけの産婦人科の先生もしくは保健所に連絡してください。

- ① 1 時間に 2 回以上の息苦しさを感ずる時
- ② トイレに行くときなどに息苦しさを感ずるようになった時
- ③ 心拍数が 1 分間に 110 回以上、もしくは呼吸数が 1 分間に 20 回以上
- ④ 安静にしていても酸素飽和度が 93-94% から 1 時間以内に回復しない時
(妊娠中は赤ちゃんのために 95% 以上の酸素飽和度が必要です)

(B) 以下の場合には、すぐに救急車を要請してください。

- ① 息苦しくなり、短い文章の発声も出来なくなった時
- ② 酸素飽和度 (SpO₂) が 92% 以下になった時

【出典】

(1) 英国、National Health Service 「COVID-19 感染症を患った患者の方々が自宅で経過観察する場合」 <https://www.nhs.uk/conditions/coronavirus-covid-19/self-isolation-and-treatment/how-to-treat-symptoms-at-home/>

(2) 英国産科婦人科学会 (RCOG)、「妊娠中の COVID-19 感染」
<https://www.rcog.org.uk/globalassets/documents/guidelines/2021-02-19-coronavirus-covid-19-infection-in-pregnancy-v13.pdf>

日本産科婦人科学会
理事長 木村 正
日本産婦人科医会
会長 木下 勝之